薩摩川内市長　田中　良二　　殿

男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想

# 経営計画報告書

薩摩川内市女性チャレンジ委員会

令和３年３月

# 目　　次

１　薩摩川内市女性チャレンジ委員会地域づくり事業構想報告書提出を行うにあたって

薩摩川内市女性チャレンジ委員会第８期会長　錢原　睦美　・・・・・１

２　講評

女性チャレンジ委員会アドバイザー　たもつ　ゆかり氏　・・・・・２

３　女性チャレンジ委員会学習プログラム　・・・・・・・・７

４　地域づくり事業構想の概要　・・・・・・・・９

５　地域づくり事業構想経営計画・課題抽出のための現状把握の図解　・・・・１３

（１）ＳＮＳで『知る×つながる×見守る』モデル事業
～多様な人をつなぐコミュニティづくり～
＜花みずきグループ＞　・・・・・・・・１４

（２）点と点をつないでつくろう、誰もが安心して住める頼もしい地域づくり事業
～案ずるよりも支えあいマップするが易し～
＜あじさいグループ＞　・・・・・・・・１６

（３）こしきの子育て強化プロジェクト“welcome　甑島”事業
＜バーリンガールグループ＞　・・・・・・・１８

（４）隣人力の発信！困ったときは、おじちゃん、おばちゃんたちがいるよ
～隣近所のおじちゃん、おばちゃんたちの力を資源に！～
＜尊（みこと）グループ＞　・・・・・・・・２０

６　活動経過報告　・・・・・・・・２２

７　薩摩川内市女性チャレンジ委員会名簿（第８期）　・・・・・・・・２３

## ８期薩摩川内市女性チャレンジ委員会経営計画報告書の提出を行うにあたって

女性チャレンジ委員会は、平成 17 年４月に、男女が互いに、その人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなくその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざし「市政に市民の声を幅広く反映させる。女性の立場から行政と市民に対し提言する。多くの女性が市政へ参画する機会をつくる。社会参加の促進を図る。」などの目的で設置され、今期が第８期となります。

今期は、薩摩川内市企画政策課から第２次薩摩川内市総合計画、平成 31 年度当初予算等の説明や議会傍聴の機会も設けていただきました。アドバイザーのたもつ ゆかり先生から、「男女共同参画の視点に立った地域づくり[1]」「合意形成に向けた一人ひとりを尊重した話し合いの訓練」「誰一人取り残さない社会をめざすＳＤＧｓ」など、多くのご指導をいただきました。

25 人が４グループに分かれ、社会課題に女性チャレンジ委員会の視点でアプローチ⇒調査研究テーマの設定⇒現状把握・市役所の関係課へのヒアリング⇒現状把握の図解・重点課題の抽出⇒解決策の設定と、各グループが感染予防に注意した自主学習会を交えながら「We Do！」を合い言葉に熱意をもって、また、安心して自由に意見を言い合える雰囲気の中取り組みました。

特に、現状把握では情報カードをご覧になった、たもつ先生から、アンコンシャス バイアスから生じる画一的な考え方（意見情報）が、当事者の尊厳を傷つけてしまうことがあるとのご指導で、ハッとし反省するとともに、「一人ひとり、それぞれが人権の主体であるということ」を、事実情報に修正する作業過程で、その都度認知できました。

昨年から、新型コロナウイルスの影響で大変な中ですが、第７期の甑島のメンバーによる“こしきフレンドシップパーティ”事業が実施、継続され、また、女性チャレンジ委員会で５期学ばれている犬井美香さんが初めて市議会議員として、“一人ひとりが大切にされる薩摩川内市をつくる”ため活躍されていることに、大変な喜びと勇気をもらいました。

この度、活動報告として「地域づくり事業構想」４事業を提出いたします。これらの経営計画は、委員それぞれが自分の住む地域コミュニティーにおいて、地域共生社会の実現に向けた取り組みや、ボランティア活動の人材育成のネットワーク化に生かそうと「できることを・できる人が・できるときにという志向」で、短期的計画を先行実施しているグループもあります。

なお、今後活動していく中で、私たちだけではどうしても解決できない問題が生じた場合は、市担当課に相談いたしますので、ご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

本経営計画報告表の作成にあたり、多大なアドバイスと慈愛あふれる御指導を賜りました、たもつ ゆかり先生に深く感謝申し上げます。

毎回の委員会運営では感染予防等様々な配慮と貴重な学びの機会を設けてくださいました薩摩川内市役所、ひとみらい政策課の職員の皆様、誠にありがとうございました。

令和３年３月１６日

薩摩川内市女性チャレンジ委員会
会　長　　錢原睦美

---

## 第８期「女性チャレンジ委員会」講評

アドバイサー　たもつゆかり

**はじめに**

第８期「女性チャレンジ委員会」の委員のみなさま、この２年間本当にお疲れさまでした。今期もまた、みなさんの真摯な活動の中で、私も多くのことを学ばせていただいたことに感謝申し上げます。

チャレンジ委員会は、薩摩川内市における男女共同参画社会の形成に向けて、その中核の課題である「政策・方針決定過程への女性の参画」を進めるためのポジティブ・アクション（積極的改善措置）として、女性のエンパワーメントを図ることを目的としています。この目的に適い、先の市議会議員選挙でチャレンジ委員会から初めての議員も誕生し、これまで多くの委員のみなさんが、市の審議会等へ参画しています。

政策・方針決定に関わる人材の多様性（ダイバーシティ）の推進は、多様化・複雑化する政策課題への対応力を高めるために不可欠であり、あらゆる分野における男女共同参画（ジェンダー平等）の推進は、その基盤を成す重要な課題です。

新型コロナウィルス感染症拡大の中で、約６割が非正規で働く女性の雇用への深刻な影響、若い女性の自死者やDV・性犯罪の被害が急増するなど社会に構造的に存在するジェンダー格差（男女格差）・ジェンダー不平等が顕在化しました。

人口減少社会に直面し「アフターコロナ」の時代を見据えるいま、女性を当事者とする問題から社会のありかたに問いを立てる重要性に、政策・方針決定過程への女性の参画拡大への社会的ニーズが高まっています。

また、2015年に国連サミットで採択された「世界を変革するー持続可能な開発のための2030アジェンダ」の前文には、「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女児のエンパワーメントを達成することを目指す」とあり、このアジェンダに含まれるSDGｓ（持続可能な開発目標）の５番目の目標には「ジェンダー平等を実現しよう！」が掲げられています。

男女共同参画（ジェンダー平等）は、持続可能な社会形成をめざす社会開発政策として国際的協調の下に進められています。「誰一人取り残さない」を理念に謳うSDGsや地方創生においても「男女共同参画の視点」の主流化を図ることが要請されており、今後一層「女性チャレンジ委員会」の活動が担う役割も重要になるでしょう。

このコロナ禍での今期の活動も無事に終了し、２年間を通して、薩摩川内市のこと、地域のことを考え続けたエネルギーが集約された「地域づくり事業」「地域づくり事業経営計画」の策定に至りました。この間、調査研究活動にご協力いただいた関係各課のみなさま、コロナ対応等の配慮を尽くして活動を支えて下さったひとみらい政策課のみなさまに感謝申し上げます。

委員のみなさまのさらなるエンパワーメントを期待しています。

2021年3月11日

**あじさいグループ**

**テーマ　ひとりぽっちをつくらない**

**点と点でつないでつくろう、誰もが安心して住める頼もしい地域づくり事業**

**～案ずるよりも支え合いマップするが良し～**

民生委員など何らかの形で地域福祉に関わっている委員のみなさんの活動の現場からの実感に根差した事業です。活動する中で、加齢や障がい、生活困窮、家族関係などにより生きづらさや生活上の困難をかかえる人が、誰にもどこにもつながらず、行政や、自治会・地区コミュニティ協議会の地域づくりによるサービスから取り残されることに心を寄せ続けてきた思いが「ひとりぽっちをつくらない！」というテーマに込められています。

この事業の発端には、委員のみなさんの思いに応える「頼もしい地域づくり」として、すでに一部の地区コミュニティで取り組まれている「まるごとささえ愛事業」への期待がありました。どうしてもっと広がらないのか？という疑問から地域コミュニティのありかたについての問題意識を深めています。「共助」領域としての地域コミュニティに求められる「機能」、その機能に適う「仕組み」、住民の自治に対する意識などコミュニティが「頼もしい」コミュニティ力を発揮できるための基盤となる様々な課題の認知に至っています。

この考察の過程で「支え合いマップ」に着眼し、地域コミュニティづくりの基盤を培う手段として「支え合いマップづくり」を普及することを地域づくり事業として立案しました。そのこと自体が目的ではなく、支え合いマップづくりに多くの住民が参加する過程の意義が事業化されており、その「点と点をつないでつくる」作成の過程に、「ひとりぽっちをつくらない」インクルーシブな地域であるために求められる住民参加による地域力の醸成を願い、住民一人ひとりをつなぎ、住民一人ひとりがつながる場や機会の必要性と可能性を見出しています。

この事業は、地域福祉を担う主体として期待される地域コミュニティのありかた、地域の包括性と多様性から生まれる住民間のつながり、関わり合いの力が地域づくりの大きな力であることなど、改めて「共助」のありかたを問い掛けています。

委員のみなさんがこれまでの活動や生活の中で持ち続けた問題意識をベースに、「問い」から「解」への立案の過程を着実に進めていき、その必然の結果として「支え合いマップづくり」という既存の事業の価値を照らし出しました。

それも偏に、委員のみなさんの普段からの自治意識の高さによるものだと思います。

**バーリンガルグループ／テーマ　豊かな子育ての島を目指して**

**こしきの子育て強化プロジェクト〝welcome 甑島〟事業**

甑島からの参加者で構成されるグループは、毎期、他のグループに比べて収集される情報の量が多く、その内容も多岐にわたるという特徴があります。それは、きっと、島での暮らしが地理的な制約を受ける中で様々にある生活上の困難や課題を、地域のみんなで考えようという意識の高さが根付いているからだと思います。

「子育て」をテーマとする今期は、小・中学校、幼稚園、保育園の男女の保護者を対象に

したアンケート調査による情報収集を行いました。また、グループの中に子育ての当事者と、近く親になる若い世代の委員がいたこともあり、子育て世代をめぐる島での暮らしの様子がリアルに読み取れる情報が集まりました。アンケート調査は、回収率が高く、ぎっしり書き込まれる内容からは「これまで子育て世代の若い人が意見を発信する機会が少なかった」ことが伝わり、若い世代のコミュニティ離れや固定化された人たちで地域づくりが行われていることへの問題意識が共有されました。この問題意識は事業の柱となるとともに、チャレンジ委員会における、このグループの世代を超えた活動の姿にも反映されていたように感じられました。

アンケート調査を中心に収集された情報から見えてきたことは、医療・教育等の基盤整備を求める生活の不安や困難がある一方で、子育て世代の多くの人が甑島の自然や人々とのつながりの中での子育てに満足度が高いということでした。

このように把握された現状から子育て世代の子育てや生活の安心を高めるための資源として「ネットの活用」と「先輩世代のサポート」による可能性を見出したのは、若い委員の子育ての当事者性とネットへの親和性、高校生になると島を離れざるを得ない子どもたちを島ぐるみで大切にしてくれた甑島ならではの先輩世代への信頼があったからでしょう。

「ネットの活用」と「先輩世代のサポート」による子育て世代の安心を高めるための相談・情報交換・交流の拠点をつくり、そこが、アンケート調査で実感された若い世代の潜在力が活かされる場や機会を創出し、甑島で子育てしたい人を呼び寄せる「welcome 甑島」事業へと発展させる・・ネットによる発信力を戦略的に活用する着想で立案されています。

事業名にある「子育て強化プロジェクト」に、この事業の展開により島ぐるみで子育てを応援する大きな動きをつくりだしたいという意欲が感じられます。

アンケート調査を実施し、委員のみなさんが子育て世代の若い人の声を聴く機会を提供したことが、このプロジェクトでの何かしらの動きにつながるような気がします。

先輩世代の子育てのサポートにより、子育て世代が地域で動く！

この事業には、これまでの甑島グループも模索してきた、島における子育て支援と活性化をつなぐ地域づくりの姿が描かれています。甑島におけるこれまでのチャレンジ委員会のネットワーキングの力が、今期、甑島の将来を担う若い委員のみなさんの参加を後押ししてくれたことで、先輩世代と子育て世代とのコラボにより支援する側の一方通行にならない「豊かな子育ての島を目指す」子育て支援のありかたから地域づくりの可能性を拓く事業になりました。

**尊グループ／テーマ　誰一人取り残さないコミュニティづくり**

**隣人力の発信！困ったときは、おじちゃん、おばちゃんがいるよ事業**

**～隣近所のおじちゃんおばちゃんたちの力を資源に～**

この事業は、身近に起こった児童虐待の深刻なできごとに、委員のみなさんが地域の大人として「何かできることはなかったのか？」と胸を痛めた共通の思いに根差しています。

そして、このようなできごとにつながるかもしれないと心配される子どもたちや、一人

で悩みをかかえている子育て世代の親などが、自分たちの身近にもいるかもしれない・・・「私たちにできることは？」という思いが、この事業のベースとなっています。

「あるかもしれない」ことが看過され潜在化すれば深刻化していく、しかし「あるかもしれない」は「ないかもしれない」ことで、このような状況へのアウトリーチは難しい・・・でも、ほっとけない！このような話し合いが、収集された「ほっとけない！」情報の山を前にして行きつ戻りつ続いたことでしょう。

「誰一人取り残さない」地域であるためには、切れ目の無い支援が必要です。この事業は、「近隣力」こそが切れ目の無い支援の基盤であることに着眼しており、「日常の関わりの中での寄り添い力」の大切さの意味を体現しています。

そして、委員のみなさんが、日常の営みの中で何かしら相談されたり、お互い様のやりとりをしていることの実感が、「隣近所のおじちゃん・おばちゃん」の登場！につながりました。家族や親には言えない・言いたくない・・・ことを聴いてくれる、受容してくれる近所のおじちゃん・おばちゃん、この「斜めの関係」の効能はよく知られています。

しかし、隣近所のおじちゃん・おばちゃんが「おじちゃん・おばちゃん力」になるためには、これまでの人生の中で身に付けてきた「女性は／男性は〇〇であるべき」「子育ては〇〇であるべき」などの偏見や思い込みが、活動による二次被害を起こさないように、人権・男女共同参画を学ぶ共同学習の場を活動の拠点とすることが、この事業のポイントです。この共同学習の場は、男女共同参画推進の課題である「地域で身近に男女共同参画を進める」機能も担うことになります。

きわめてシンプルな事業だけれど、誰かにいちばん近い誰かー隣に信頼できる「おじちゃん・おばちゃん」が居てくれることの安心力の深い意味を訴求しています。

**花みずきグループ**

**テーマ　人と人とがつながりながら安心して住み続けられる街を目指して**

**「SNS で『知る×つながる×見守る』モデル事業」**

**～多様な人をつなぐコミュニティづくり～**

このコロナ禍で、人と人とが対面でつながる場や機会が少なくなりました。その一方で、テレワークの導入やオンラインの活用が多様な分野で新たな可能性を開き、インターネット上の SNS 等でのコミュニケーションもさらに活発化しています。

このグループの活動は「薩摩川内市に住み続けたいと思わない」というメンバーのつぶやきから始まりました。このつぶうやきから「どうして、住み続けたいと思わないのか？」という「問い」が立てられ、人々が居住する地域コミュニティにおける人と人とのつながり方についての考察を深めました。

地域コミュニティのありかたについての考察は、チャレンジ委員会の定番となっています。特に、任意の民間組織である自治会と異なり、薩摩川内市においても市町村合併による行政区域の広がりや地方分権の進展に伴い、地域協働による地域づくりの主体として制

度化された地区コミュニティ協議会への期待は、人口減少等の地域を取り巻く変化の中で、さらに高まっています。

このグループにおいても、増えていく様々な生活上の困難をかかえている人を、担い手の高齢化や若い世代のコミュニティ離れ等の状況にあるコミュニティだけでは支えきれなくなっていることを心配しています。また、根強い固定的性別役割分担意識や同調圧力により、依然として女性や若い世代の参画が進まない状況に、「どうして、住み続けたくないのか？」という「問い」に応えて、地域の多様化への対応力を高める必要性が提示されています。

この必要性は、言い尽くされているのに・・・遅々として進まない状況に、この事業は、SNS というツールに活路を見出しました。ＳＮＳの特性から多様性に富んだ新たな地域のつながりが生まれる可能性があります。ＳＮＳでなら声を挙げられる、助けて！と言えるかもしれない・・・等々、この事業の付加価値は多岐に考えられます。

暮らしの安心を支える「知る×つながる×見守る」コミュニティ力を高めるためには、地域の多様化への対応力が求められる中、コミュニティづくりにおけるＳＮＳの効能に注目！の事業です。

## チャレンジ委員会の学習プログラム

男女共同参画の視点（一人ひとりの人権の尊重を基盤とし、サービスの担い手であると同時にサービスを創り出し提供する側でもあるという視座から考察をする。＝地域生活者の視点　We Do！）からの地域づくり事業構想策定までの、２年間の学習のプログラムをご紹介します。

### 1　第１次テーマの設定

現段階におけるグループでの問題意識を集約し、それらの問題意識の背景を話し合いテーマを決定します。(テーマは「問い」)

＜チャレンジ委員会の話し合いのルール＞

①批判厳禁　②自由奔放

③量を出す　④結合改善

### 2　情報収集

地域の現状を把握するために、委員は情報収集を行います。(情報を付箋紙に書き出します。) 地域の方から５人は聞き取りを行い、付箋紙２０枚を目標にします。

### 3　意見情報から事実情報への修正

情報収集した情報の殆どが意見情報になっているため、事実情報へ変換する学習を行います。

（例）（意見情報）子育て世代の人は、自分の生活のことばかりで、地域の行事に**参加しない**。→

（事実情報）私の住んでいる地域では、子育て世代の人の多くが、地域の行事に**参加していない**。

これは、固定観念を捨て、事実として受け止めることで「なぜ？」という確かな**問い**を導き出します。

今までの固定観念を振り払いながらの作業になります。

### 4　カードのグループ化・現状把握

事実情報に修正したカードを「共通性がある」「関係性がある」のレベルでグループ分けをします。言葉そののもではなく言葉の背景にあるイメージでまとめます。まとめたカードに見出しをつけます。まとめられるかどうかわからないカードも積極的に検討していきます。

### 5　空間配置・図解の作成

グループ分けしたカードを相互関係を考えながら模造紙の上に配置し情報の分析を行います。関係線を引き**図解**を完成させます。

【相互関係】

・因果関係アリ

・密接な関係アリ

・関係アリ

・相互に影響しあう関係アリ

・反対または対立し合う関係アリ

### 6　重要課題の抽出

現状把握したことを、図解作成することで、テーマについての問題がいくつか抽出できます。その問題について「なぜ、そのような問題があるのか？」問題の本質をつかみ、それらの問題解決のためには「このようなことをしなければならない。」「こういう事をやろう」という課題を選び出していきます。

## 7　解決策の設定

抽出された課題に対して「何を私たちは、しなければならないのか。」を明確におさえていきます。

## 8　事業構想の決定

解決策を設定し、今までの作業を振り返りながら、実現可能な事業構想を決定します。

はじめに

・どのような思いを持ってテーマの設定を行ったか。

現状把握

・情報収集を行い、グループ化し、図解によって導き出された問題

重点課題の抽出

・現状把握の基盤となった、問題意識を集約し導き出す。

地域づくり事業構想（事業名の決定）

・問題解決のための事業構想が決定します。

## 9　経営計画の作成

問題解決のための事業構想＝「地域づくり事業構想」が決定し、私たちが導き出した地域課題解決に向けて、とのような取組行っていけば良いかを経営計画として、図式化していきます。

### 1　事業の付加価値

事業によって生み出される状況等を考えます。

### 2　事業により利益が及ぶ人

事業を進めることにより関わりが生まれ、利益を得る人を考えます。

### 3　長期・中期・短期事業計画

長期・中期・短期に実施できる事業計画を考えます。

### 4　実現のための制約要因

事業を実現していくために、制約される要因を考えます。

### 5　獲得すべき経営資源

事業を進めて行くために必要な人的資源、物的資源、財務的資源を考えます。

### 6　必要なネットワーク化

事業の実現のために協働して進めていく組織や個人等を考えます。

## １０　経営計画の完成

男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の経営計画を完成させ、チャレンジ委員会での発表会を行います。

発表会の様子

## １１　市長への報告書提出

市長へ「男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想」の報告をし、事業の実現に向けて、取組んでいくことになります。

「We　Do！」私たちでやっていきましょう！（我がたっですっど！）をコンセプトに各地域に委員の方が学びを還元し、地域の方々を巻き込みながら、一人ひとりにより近くにいる住民として、一人ひとりに寄り添っていける人が誕生していきます。

第８期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

| No. | 1 |
|---|---|
| 班名 | 花みずき |
| メンバー | 青山、犬井、圓崎、神田、鶴屋、武藤 |
| 地域づくり<br>事業構想名 | 「SNSで『知る×つながる×見守る』モデル事業<br>～多様な人をつなぐコミュニティづくり～ |
| 調査・研究<br>テーマ | 人と人とがつながりながら安心して住み続けられる街を目指して |
| 調査研究により共有されたテーマに対する問題意識 | 薩摩川内市の人口は、少子高齢化による自然減少だけでなく、転入者より転出者が多く社会的減少も見られるが、様々な行政の制度があるにも関わらず人口減少を食い止めるまでには至っていない。<br>コロナ禍において改めて「人と人がつながる」ことの大切さを感じた。ただ、これまでのように人と人が会うことによりつながるだけでなく、遠くに居ても見守ることができる仕組みづくりや生活上の困難を抱えている高齢者や若い世代が「助けて」と声をあげることができる環境の必要性を認識できた。 |
| 抽出された課題 | ①地域での多様性教育の推進<br>②ネットで多世代がつながるコミュニティづくりの推進 |
| 事業の経営計画<br>短期<br>（数ヶ月） | ☆事業の中心となるメンバーを募る。<br>（地域内外へSNSを得意とする若い世代への声掛け）<br>☆事業の中心となるメンバーの学習会（思いの共有・SNSについて）<br>☆モデル地区の選定、依頼（地区コミ会長会などでのプレゼンテーション）<br>☆（モデル地区となる）地区コミュニティ協議会や自治会、住民への事業説明<br>☆事業計画作成<br>☆生涯学習での学び（SNSについて、多様性教育）<br>☆人材の掘り起こし |
| 事業の経営計画<br>中期<br>（1年～2年） | ☆情報通信網・情報機器の整備<br>☆事業の中心となるメンバーの意識共有、スキルアップのための学習会<br>☆中心となるメンバーの増強（専門性をもつ）<br>☆生涯学習での学びの継続（SNSの活用・多様性教育） |
| 事業の経営計画<br>長期<br>（3年～5年） | ☆情報通信網・情報機器の整備完了<br>☆SNSを活用したコミュニティネットワークのスタート<br>☆住民への利用方法説明会に向けた情報発信（チラシ・コミセン便り・防災無線など）<br>☆住民への利用方法説明会開催<br>☆定期的な利用状況確認、見直し |
| 事業構想による付加価値 | ○潜在する悩みごとや困りごとの掘り起こしにつながる<br>○若い世代の知識を活かす⇒コミュニティ活動への参加<br>○対面だけのつながりだけでなく、新しい地域のつながりが生まれる<br>○地区コミュニティ協議会などの方針決定過程へ多世代・多様な方々が参画できる<br>○制度化されたコミュニティの枠を超えて、コミュニティ力が高まる可能性がある<br>○多様な方々の参画により、人権意識や自治意識が醸成される |

第８期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

| No. | 2 |
|---|---|
| 班名 | あじさい |
| メンバー | 内野、木下、井上、穂村、山門、辻原 |
| 事業構想名 | 「点と点をつないでつくろう、だれもが安心して住める頼もしい地域づくり事業」<br>～案ずるよりも支えあいマップするが易し～ |
| 調査・研究<br>テーマ | ひとりぽっちをつくらない |
| 調査研究により共有されたテーマに対する問題意識 | 生活上の困難が人々の生きづらさの背景にあることについての現状を把握したうえで、薩摩川内市においては、すでにコミュニティによる「まるごとささえ愛事業」に取り組んでいる地域もあるが、ひとりもとりこぼさない住民同士の生活支援体制が必要だと気付いた。 |
| 抽出された課題 | ① 地区コミ、自治会の役割の再認識と住民のコミュニティ意識の醸成を図り、地域全体で展開する生活支援の仕組みづくり<br>② 困難な状況に置かれている人が取り残されることなく地域の誰もがつながりあえる（誰にも出番と居場所がある）場の創出 |
| 事業の経営計画<br>短期<br>（数ヶ月） | ☆「普及委員会」の立ち上げ<br>・事業の中心メンバーを募る ・メンバーの学習・研修会<br>・人材の掘り起こし ・事業計画作成<br>☆支えあいマップ講座素案づくり<br>☆男女共同参画の視点を加えたマップづくり素案→市、社協へ事業説明、協議～協働<br>☆支えあいマップづくり経験のある地区コミ、自治会へのプレゼン協力依頼 |
| 事業の経営計画<br>中期<br>（1年～2年） | ☆周知・広報活動<br>自治会長会、地区コミ会長会、地区コミ主事会、民協定例会、健やか支援アドバイザー研修会、子ども会研修会、ふれあいサロン等でチラシ配布や説明、支えあいマップづくり経験のある地域のプレゼン<br>☆支えあいマップづくりしたい地区コミ、自治会を募る<br>☆支えあいマップづくり養成講座の定期開催<br>☆養成講座受講者のボランティア登録<br>☆事業中心メンバーのスキルアップ学習・研修会 |
| 事業の経営計画<br>長期<br>（3年～5年） | ☆支えあいマップづくりの全地域への普及、実施を図る<br>☆支えあいマップから生活支援や集いの場づくりにつなげるために、<br>→支えあいマップづくり講座の継続実施<br>→講座受講者のフォローアップ（茶話会や講座）<br>→マップ経験者へのアンケート<br>☆成果ふりかえり→事業内容の見直し等検討 |
| 事業構想による付加価値 | ○行政、社会福祉協議会等との連携・協働により、地区コミ、自治会の役割の再認識と住民のコミュニティ意識の醸成を図る。<br>○支えあいマップづくりに取り組む過程がお互いの信頼関係を構築する。<br>○普段話合いの場・集いの場に参加しない人のことも取り上げることで、包摂的な考え方に気づくことができる。<br>○地域生活者自身が地域の現状を把握することで、必要な支援や居場所づくりを自ら創造することができる。 |

第８期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

| No. | 3 |
|---|---|
| 班名 | バーリンガール |
| メンバー | 江口、白潟、植村、中野、塩釜、小川、川路 |
| 事業構想名 | こしきの子育て強化プロジェクト “welcome 甑島”事業 |
| 調査・研究テーマ | 豊かな子育ての島を目指して |
| 調査研究により共有されたテーマに対する問題意識 | 私たちは、アンケート調査を実施したが、回収率が高かったことやその内容に、若者としての意見を発信したいという真剣さを感じることができた他、これまで子育て世代の意見や考えを発信する機会が少なかったことを実感した。<br>また、子育ての社会的基盤の整備を求める一方で、多くの人が甑島は自然が多く、人情あふれる地域で子育てしやすい環境であると感じていることに、気づかされた。そのためにこの事業は、子育てに良い環境を保持しつつ不便や困難な事柄を解決していく必要があり、地域住民が主となり事業計画や実行を進めていく過程を大切にしたものでなければならないと考えた。そして、現在子育て中の人々が、今以上に甑島は子育てしやすいと感じ、そのことが島内外に発信され、甑島で子育てしたいと思う人々を呼び寄せることができればと考えた。 |
| 抽出された課題 | ◎子育て世代にとって親和性があるネットの活用と、先輩世代のサポートによる子育てや生活の安心を高める相談・情報交換・交流の拠点づくり<br>◎甑島の将来を担う子育て世代の思いや声が、甑島づくりに参画できる場や機会の創出 |
| 事業の経営計画<br>短期<br>（数ヶ月） | ☆交流の場(キッズステーション)のしくみづくり<br>・モデル地区で実践開始、検討<br>・オンラインの体験会開催<br>☆こしき子育てコミュニティの組織づくり<br>・ネット上でのグループ作り<br>・医療機関や保健師、医療関係者との交渉 |
| 事業の経営計画<br>中期<br>（1年～2年） | ☆交流の場(キッズステーション)の開催<br>・各地域での開催<br>☆こしき子育てコミュニティの組織結成<br>☆ネットが使える場所や環境確保<br>☆島外からの子育て世代の受け入れ準備<br>・住居確保、整備　・事業内容発信　・就職先の斡旋 |
| 事業の経営計画<br>長期<br>（3年～5年） | ☆“welcome 甑島”事業の展開<br>☆交流の場(キッズステーション)の定期開催<br>☆島外からの子育て世代の受け入れ体制を整える。 |
| 事業構想による付加価値 | ○子育て世代の交流がより活発になり、子育て支援につながる。<br>○異世代と交流する場ができることでコミュニケーションがとりやすくなる。<br>○地域ぐるみの子育てが充実する<br>○子育て世代のコミュニティへの参画促進<br>○甑島で子育てをしたいと思う人が増える。 |

第８期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

| No. | 4 |
|---|---|
| 班名 | 尊（みこと） |
| メンバー | 今吉、家村、小田原、中谷、福山、銭原 |
| 事業構想名 | 隣人力の発信！困ったときは、おじちゃん、おばちゃんたちがいるよ」事業<br>～隣近所のおじちゃん・おばちゃん達の力を資源に！～ |
| 調査・研究<br>テーマ | 誰一人取り残さないコミュニティづくり |
| 調査研究により共有されたテーマに対する問題意識 | 本市においては、子育てや児童・生徒に関する相談支援体制が整備され、様々なサービスがあるが、私たちの身近には、誰にも・どこにも相談できず、悩みや困難を一人で抱え込んでいる人たちや、地域の慣行に馴染めない等の理由で地域との関わりが希薄であるため、困難な状況に心を寄せている人、地域で何か貢献したいと思っている人の潜在力が活かされていない。<br>地区コミュニティ協議会や自治会において、生活上の困難を抱えている人を支援する様々な地域づくりが取り組まれているが、今後さらに支援を必要とする人の増加や、行政や地域の支援につながらず潜在するニーズ に対応する地域づくりのありかたや、しくみが要請される。 |
| 抽出された課題 | ◎地域で多様な困難を抱えている人が、「相談ができない状況」に、おかれないための〝日常の関わりの中での寄り添い力〟のある地域づくり<br>◎地域貢献したい人や、潜在力として期待されている「隣のおじちゃん、おばちゃん」を発掘し、人権教育をベースとした、ジェンダー平等の視点を基にした人材育成の場、及びネットワークづくり。 |
| 事業の経営計画<br>短期<br>（数ヶ月） | ☆私たち（尊グループ）による「繋がりタインジャー」の立ち上げ<br>☆第一回共同学習の実施に向けて、ひとみらい政策課、男女共同参画地域推進員、チャレ ンジ委員会委員有志への協力要請（「誰一人取り残さない地域コミュニティづくり」のために不可欠な人権・ジェンダー平 等（男女共同参画）の視点を、私たちの提案事業を題材としてみんなで語り合いながら 学び合い、情報交換を行う。学習のファシリテーターとして「先に学んだ」男女共同参 画地域推進員、チャレンジ委員会委員の「さらなるエンパワーメント」の機会としてお願いする。）<br>☆「共同学習」の内容についての研究<br>☆第一回共同学習の実施に向けて、ファシリテーターの事前学習の実施<br>☆社協、地区コミ協、地区の民生委員・児童委員・丸ごと支え愛事業のコーディネーター、 地域の〝おばちゃん同志の井戸端会議〟等にて、私たちの提案事業の趣旨及び「繋がり タインジャー」の説明、第一回共同学習への参加案内を行う。<br>☆第一回共同学習の実施―「繋がりタインジャー」活動への参加を募る。<br>☆誰もが参加自由のカフェ等を開催。（そのチラシを作成し、地区の民生委員、児童委員 等の協力を得て、参加の呼びかけをする。）<br>☆「繋がりタインジャー」の得意分野の把握<br>☆第一回共同学習、カフェの評価―改善事項の検討<br>☆「繋がりタインジャー」をはじめ地域の人を対象とした行政や地域の相談・支援のサー ビスについて知る学習会の実施（様々な相談・支援行政サービス等があることの地域の 人への周知及び「繋がりタインジャー」の活動で必要とされる場合に、速やかに適切 に行政・支援機関等に繋げられるようするために行政・社協等に講師、情報提供を依頼する） |
| 事業の経営計画<br>中期<br>（1年～2年） | ☆繋がりタインジャー」メンバーのフォローアップ研修・共同学習の継続（定期的実施）<br>☆「共同学習」への参加促進活動<br>☆「繋がりタインジャー」の地域単位の活動に向けての体制づくり（自治 会・地区コミ協への協力・連携要請等）<br>☆誰もが自由に参加できるカフェの定期開催<br>☆必要とする人に行政支援・サービスを繋ぐ場合の連携のありかたを確認し、より連携を図るための行政・支援機関・社協、民生委員・児童委員等との情報交換の実施。<br>☆ホームページ制作の資金調達のためのバザー等の実施 |
| 事業の経営計画<br>長期<br>（3年～5年） | ☆「共同学習」「誰もが自由に参加できるカフェ」の定期的実施による日常の営みの中での支え合いを行う本事業、「繋がりタインジャー」の定着と継続<br>☆「繋がりタインジャー」の地区単位の活動の定着と広がり<br>☆「近所のおじちゃん・おばちゃん力」を発信する「繋がりタインジャー」のホームペー ジ制作 |
| 事業構想による付加価値 | ○人権・ジェンダー平等を学ぶことにより、固定観念にとらわれることなく、一人完結で抱えている「見ようとしなければみえない」悩みや困難の把握につながる。<br>○行政サービスにつながっていない困難な状況にある人とサービスをつなぐ役割が担える。<br>○身近な交流（関わり合い）の場の機会を通じた細やかな情報交換ができることにより、悩みや困難を抱えている人に、いち早くアウトリーチできる機会が得られる。<br>○子育て世代の不安や孤立感を固定観念にとらわれずに受容できる“関わり合い”の場や機会をつくりだすことにより、子育てを地域で見守る意識の醸成につながる。<br>○子どもたちとの“斜めの関係”ができることにより、子どもたちが、家族以外の人との繋がりの中で様々な経験ができ、家族に言えないことも相談できる場や機会をつくりだせる。<br>○定年後のOB・OG等シルバー世代の社会参加の促進につながる。<br>○地域で身近に人権・男女共同参画を進める啓発の広がりにつながる。 |

# 男女共同参画の視点に立った
# 地域づくり事業構想経営計画
# 課題抽出のための現状把握の図解

～We Do！実現可能な事業構想経営計画～

テーマ：人と人とがつながりながら安心して住み続けられる街を目指して

花みずきグループ： 青山美由紀　犬井美香　　圓﨑信子
神田洋子　　鶴屋志津子　武藤智子

事業名：「SNS で『知る×つながる×見守る』モデル事業～多様な人をつなぐコミュニティづくり～

私たちのグループは、それぞれのメンバーが日頃感じている問題意識を出し合うことからスタートした。自治会の問題、老後の不安、ゴミの問題など多くの問題が出される中で「薩摩川内市に住み続けたいと思わない。」というつぶやきがきっかけとなり、「何故住み続けたいと思わないのか？」という問いが立った。住み続けたい街、住んで良かったと思う街づくりのために必要なことは何かを考える中で、人は人とつながることで安心できることに気づき、調査・研究のテーマを「人と人がつながりながら安心して住み続けられる街を目指して」とした。

【現状として把握されたこと】

薩摩川内市の人口は、少子高齢化による自然減少だけでなく、転入者より転出者が多く社会的減少も見られるが、様々な行政の制度があるにも関わらず人口減少を食い止めるまでには至っていない。

① 私たちの地域には、様々な生活上の困難を抱えている人々がいるが、担い手の高齢化や若い世代のコミュニティ離れ等により地区コミュニティ協議会や自治会だけでは支えきれなくなってきている。
② 高齢化に伴い免許返納される方々が増えたことにより、交通弱者・買物弱者の方々も増えている。現在の地域公共交通の取り組みだけでは、困難な状況の解決には至らない。
③ 地域の高齢化や家族形態の多様化、共働きの増加により多世代のつながりやコミュニケーションが希薄化することで、一人ひとりの困難が見えにくくなっている。
④ コロナ禍を機に高まる地方分散の動きに、地域でも多様な人を受け入れる気持ち、意識が醸成されているかが心配される。

この過程、そしてこのコロナ禍において改めて「人と人がつながる」ことの大切さを感じた。ただ、これまでのように人と人が会うことによりつながるだけでなく、遠くに居ても見守ることができる仕組みづくりや生活上の困難を抱えている高齢者や若い世代が「助けて」と声をあげることができる環境の必要性を認識できた。

【課題として抽出されたこと】

① 地域での多様性教育の推進
② ネットで多世代がつながるコミュニティづくりの推進

以上①、②の課題解決に向けた SNS で『知る×つながる×見守る』モデル事業は、これまでの制度化されたコミュニティの枠組みや地域の中で依然として根強い固定的性別役割分担意識、同調圧力などにより地区コミュニティ協議会などの方針決定過程へ参画できない若い世代のニーズ、声をあげられない方々の声に柔軟に対応していくために、SNS で住民とミュニティ協議会がつながることにより、時間や場所に関係なく地域の情報を収集でき、全ての住民が自分の思いや考えをいつでも伝えることができる。更に、隣人や遠方に住む家族ともコミュニケーションを取りやすくなり、見守りにもつながる。SNS は若い世代ほど興味・関心もあり、ゆるやかなつながりの中でコミュニティにも関心を深める可能性も広がり多世代がつながる新しいコミュニティの姿を再編成していく事業であり、安心して住み続けられる街づくりにつながる。

**この事業の付加価値**
・潜在する悩みごとや困りごとの掘り起こしにつながる
・若い世代の知識を活かす⇒コミュニティ活動への参加
・対面だけのつながりだけでなく、新しい地域のつながりが生まれる
・地区コミュニティ協議会などの方針決定過程へ多世代・多様な方々が参画できる
・制度化されたコミュニティの枠を超えて、コミュニティ力が高まる可能性がある
・多様な方々の参画により、人権意識や自治意識が醸成される

**この事業により利益が及ぶ人**
・すべての住民
・生活上の困難を抱えている高齢者・障がい者
・DV や雇止めも増えている中で、なかなか「助けて」と言えない方々
・地区コミュニティ協議会や自治会にアクセスできない又はしたくない特に若い世代
・地区コミュニティ協議会役員
・自治会役員
・他地域に住む家族
・地域に関係する多様な人々

**長期的（３～５年程度）事業計画**
・情報通信網・情報機器の整備完了
・SNS を活用したコミュニティネットワークのスタート
・住民への利用方法説明会に向けた情報発信（チラシ・コミセン便り・防災無線など）
・住民への利用方法説明会開催
・定期的な利用状況確認、見直し

**中期的（１～２年程度）事業計画**
・情報通信網・情報機器の整備
・事業の中心となるメンバーの意識共有、スキルアップのための学習会
・中心となるメンバーの増強（専門性をもつ）
・生涯学習での学びの継続（SNS の活用・多様性教育）

**短期的（数か月）事業計画**
・事業の中心となるメンバーを募る。（地域内外へ SNS を得意とする若い世代への声掛け）
・事業の中心となるメンバーの学習会（思いの共有・SNS について）
・モデル地区の選定、依頼（地区コミ会長会などでのプレゼンテーション）
・（モデル地区となる）地区コミュニティ協議会や自治会、住民への事業説明
・事業計画作成
・生涯学習での学び（SNS について、多様性教育）
・人材の掘り起こし

**実現のための制約要因**
・地域住民の理解と協力
・人材確保
・チラシ作成などの資金調達
・話し合いの時間
・情報通信機器の整備に係る資金調達

**実現のための制約要因**
・地域住民の理解と協力
・生涯学習時の講師費用、場所の確保
・人材確保
・事業計画作成のための話し合いの時間
・中心メンバー間の時間調整

**獲得すべき経営資源―そのための計画**

| | |
|---|---|
| 人的資源 | 住民、地区コミュニティ協議会、自治会、男女共同参画に基づく人権の視点を有する人、多様性トレーナー、SNS などの専門知識を有する人 |
| 物的資源 | 地区コミュニティセンター、自治会館、パソコン、スマートフォン、iPad など |
| 財務的資源 | チラシ作成代、人件費、情報通信機器代 |
| 情報的資源 | チラシ、コミセン便り、防災無線 |

**そのために必要なネットワーク化（協働）**

| | |
|---|---|
| 自らの組織・グループの補強 | 事業への賛同者や協力者の掘り起こし、人材の確保 |
| 他の組織やグループとの関係 | 地区コミュニティ協議会、自治会、薩摩川内市女性チャレンジ委員会 |
| 特定の個人　（特に専門勢力を有する人） | 多様性トレーナー、男女共同参画地域推進員、SNS などの専門知識を有する人 |
| 対行政 | 薩摩川内市ひとみらい政策課、地域政策課、情報政策課、高齢・介護福祉課、障害・社会福祉課、保護課 |

現状把握の図解（空間配置図）

**テーマ：人と人とがつながりながら安心して住み続けられる街を目指して**

**花みずき G：武藤、犬井、青山、圓崎、神田、鶴屋**

A：薩摩川内市の人口は、少子高齢化による自然減少だけでなく、転入者より転出者が多く社会的減少も見られるが、様々な行政の制度があるにも関わらず人口減少を食い止めるまでには至っていない。

◎薩摩川内市は、近年転入する人より転出する人が多くなっている。
（令和元年度：転入 3671 名、転出 3996 名）
◎薩摩川内市の地域おこし協力隊は、任務終了後も 52%が定住している。一方 48%は地域での人間関係や夢を叶えるために都会へ移住している。
◎私の地域には、「夫が亡くなり一人になったら、鹿児島市内のマンションにでも引っ越します」と言っている人がいる。
◎私の地域では、電気カーを使い元気にお墓参りされていた方が施設に入所されることになったり、自治会に入会したままで鹿児島市内の息子さんのところに行かれる方もいらっしゃり、空き家が少しずつ増えている。

B：私たちの地域には、様々な生活上の困難を抱えている人々がいるが、地区コミュニティ協議会や自治会だけでは支えきれなくなってきている。

◎私の地域では、独居の高齢者が多いので買い物やゴミ出しなど難しくなってきている人がいる。
◎遠く離れた高齢の両親と毎日電話でやり取りしている家族が、電話がつながらない時はとても不安が大きくなると言っていた。
◎私の地域では、自治会ごとに梅雨前の河川掃除をしていたが、今は作業する方の年齢が上がり危険なため、河川掃除ができなくなった自治会も多くなってきている。
◎薩摩川内市内では、行方不明者の放送を聞く事が多くなってきている。
（H28：9 件　H29：13 件　H30：17 件　R1：21 件）
◎私の自宅の草木が伸び大変になっているのを見かねて、近所の方々が声を掛け合ってきれいにしてくださった。
◎自分が生まれ育った地域より子供が特認校でご縁のあった地域のほうが、山や川があり好きと言っている人がいる。米作りや炭焼きなども苦にならないようだった。

C：高齢化に伴い免許返納される方々が増えたことにより、交通弱者・買い物弱者の方々も増えている。現在の地域公共交通の取組だけでは、困難な状況の解決には至らない。

◎私の地位には、お買い物カーが回っているところもあるが、交通手段のない高齢者の中には並んで待っている方々もいたり、週末に家族が買い物に連れていってる方もいる。
◎私の地域には、体が動かなくなったり、病気がちになったりした時の暮らしを心配している方がいる。
◎デマンドバスが運行されている地域の方々の中には、病院などが遠い場合は乗り換えがあるため、タクシーを利用したり、家族に送迎を頼んでいる人がいる。
◎私の地区には、隣の地区まで杖をついて歩いて買い物に行かれる高齢者がいる。歩行に不自由もなく歩く速度も速いが、近所の方が道路で見かけたら声をかけ車に乗せて下さっている。
◎私の地域では、「おでかけ号」とゆう乗合自動車の運行が開始され、高齢者の買い物やサロンなどのお出かけ利用に使えることでサロン参加者が増えたり、他自治会との交流も始まっている。（地区内運行）

D：地域の高齢化や家族形態の多様化により、多世代のつながりが希薄化することで一人ひとりの困難な状況が見えにくくなっている。

◎私の地域では、共働き世代が増え、隣近所の人を知らない（分からない）人が増えてきている。
◎私の地域には、不登校の子供を抱え悩んでいる保護者もいるが、近所の方には話せずにいる。近所の方も、心配しているが声をかけづらいと言っている。
◎私の地域では、コロナ禍の中サロン活動が中止になり、皆に会えなくて寂しく感じている人が多く見られた。
◎日頃地域外では仕事をしている方が、地域の方と接する機会がほとんどないが、休日に顔を見て「こんにちは」とあいさつを交わすだけでホッとできると言っていた。
◎私の知人には、信頼できる友達が川内にはたくさんいると言っている人がいる。

**抽出された課題**

**① 地域での多様性教育の推進**
**② ネットで多世代がつながるコミュニティづくりの推進**

テーマ「ひとりぼっちをつくらない」

**事業名：「点と点をつないでつくろう、だれもが安心して住める頼もしい地域づくり事業～案ずるよりも支えあいマップするが易し～」**

あじさいグループ：内野、木下、井上、穂村、山門、辻原

私たちのグループ６名は、それぞれが異なる地域・環境で居住・生活する中で、気になる点を発言しあうことからはじめた。「ごみ出しのルールを守らない人がいる」という一言から「なぜ守らないのか」「守らないのではなく守れないのではないか」「ルールが細かすぎるのではないか」等、意見を交わしていき、体力が落ち重いごみ袋を運ぶのが困難になっている人がいる、認知症気味で分別が難しくなった世帯にゴミが溜まっている、隣近所との交流が乏しく日頃の様子が分からず手助けがない人がいるなど、生活に係る支援のありかたについて考えることになった。そこで私たちは、このような生活上の困難が人々の生きづらさの背景にあることについての現状を把握したうえで、薩摩川内市においては、すでにコミュニティによる「まるごとささえ愛事業」に取り組んでいる地域もあるが、ひとりもとりこぼさない住民同士の生活支援体制が必要だと気付き、テーマを「ひとりぼっちをつくらない」とした。

【現状として把握されたこと】

① 薩摩川内市において、住民同士の生活支援を展開する「まるごとささえ愛事業（平成 30 年度～3 年目）」は、希望する地区コミ単位の補助事業であるが、取り組みは 48 地区コミ中１４地区コミと、市全域に普及するに至っていない。

② 薩摩川内市において高齢化が進む中で、私たちの身近には、ゴミ出しや買い物等の日常生活に支障をきたしている人がいるが、地域に手助けを求める人は少なく、潜在化する傾向にある。

③ 薩摩川内において高齢化が進む中で、私たちの地域には、高齢者のみならずその家族にも影響を及ぼす「見ようとしなければ見えない」不安や困難を抱えている現状が潜在しており、周囲も気づかないでいるうちに「8050 問題」の進行や孤独死等の深刻な事例につながることが心配される。

④ 今後加速する高齢化により（2025 年問題）に直面する地域において、自治会や地区コミ等による生活支援に期待するニーズは高まるが、生活支援に具体的につなげるための、地域の現状把握・情報共有が十分になされておらず、民生委員等の人材や近隣住民による自発的な支えあいの力の活用とそれを広げるネットワークづくり（仕組みづくりの構築）が急がれる。

【課題として抽出されたこと】

① 地区コミ、自治会の役割の再認識と住民のコミュニティ意識の醸成を図り、地域全体で展開する生活支援の仕組みづくり

② 困難な状況に置かれている人が取り残されることなく地域の誰もがつながりあえる（誰にも出番と居場所がある）場の創出

以上①②の課題解決には、まず現状把握・情報共有が欠かせない。それには薩摩川内市で普及し始めている「支えあいマップづくり」の手法が極めて有効だが、全市民を対象としたとき十分認知されているとは言えない。また、その手法に人権・男女共同参画の視点をより深め「見ようとしなければ見えない」潜在する困難を掘り起こしていく必要がある。そのため私たちは「支えあいマップづくり」を十分に機能させるために、「点と点をつないでつくろう、だれもが安心して住める頼もしい地域づくり事業～案ずるよりも支えあいマップするが易し～」を計画した。

【事業の概要】　本事業は以下の①、②、③による「支えあいマップづくり」の普及を経て、参加した地域の人々自身が、ひとりもとりこぼさないという視点で、見ようとしなければ見えずにいたことに気づき、それらの困難や課題の解決衣向けて取り組み、支え合いができることを一緒に喜ぶことができる「ひとりぼっちをつくらない」地域コミュニティの基盤づくりをめざしている。

①私たち「あじさいグループ」が中心となり「普及委員会」を立ち上げる。メンバーには参加経験者、養成講座修了者がいる。

②関係機関（行政、社協、地区コミ等）に「支えあいマップづくり」普及のための提案・協議～地域生活者も巻き込んだ具体的な協働へとすすめる。

③支えあいマップづくりの担い手養成講座の実施

**この事業の付加価値**

・行政、社会福祉協議会等との連携・協働により、地区コミ、自治会の役割の再認識と住民のコミュニティ意識の醸成を図る。

・支えあいマップづくりに取り組む過程がお互いの信頼関係を構築する。

・普段話合いの場・集いの場に参加しない人のことも取り上げることで、包摂的な考え方に気づくことができる。

・地域生活者自身が地域の現状を把握することで、必要な支援や居場所づくりを自ら創造することができる。

**この事業により利益が及ぶ人**

・すべての地域生活者

・地区コミュニティ協議会役員

・自治会長及び自治会役員

・困りごとを抱えている高齢者や障がい者、その家族

・困りごとを抱えている子どもやその家族

・行政や地域のサービスにつながらない、潜在する困難な状況にある人

**長期的（３～５年程度）事業計画**

・支えあいマップづくりの全地域への普及、実施を図る

・支えあいマップから生活支援や集いの場づくりにつなげるために、→支えあいマップづくり講座の継続実施

→講座受講者のフォローアップ（茶話会や講座）

→マップ経験者へのアンケート

・成果ふりかえり→事業内容の見直し等検討

**中期的（１～２年程度）事業計画**

・周知・広報活動　　自治会長会、地区コミ会長会、地区コミ主事会、民協定例会、健やか支援アドバイザー研修会、子ども会研修会、ふれあいサロン等でチラシ配布や説明、支えあいマップづくり経験のある地域のプレゼン

・支えあいマップづくりしたい地区コミ、自治会を募る

・支えあいマップづくり養成講座の定期開催

・養成講座受講者のボランティア登録

・事業中心メンバーのスキルアップ学習・研修会

**短期的（数か月）事業計画**

・「普及委員会」の立ち上げ
　事業の中心メンバーを募る
　メンバーの学習・研修会
　人材の掘り起こし
　事業計画作成

・支えあいマップ講座素案づくり

・男女共同参画の視点を加えたマップづくり素案→市、社協へ事業説明、協議～協働

・支えあいマップづくり経験のある地区コミ、自治会へのプレゼン協力依頼

**実現のための制約要因**

○地域に生活する人、働く人、子育て中の人が参加しやすいように

○自治会加入外の人の参加　○会場の確保　○託児への配慮

**実現のための制約要因**

○市関係部署との調整　○社会福祉協議会との調整

○地区コミュニティ協議会との調整　○会場の確保

**獲得すべき経営資源―そのための計画**

人的資源・・・・地域生活者、女性チャレンジ委員会（男女共同参画を学んだ人）、ひとみらい政策課、各コミュニティ役員、託児のできる人
　　生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）、支えあいマップづくり講座受講者、支えあいマップづくり経験者

物的資源・・・・集まる場所、パソコン、大判印刷地図、資料印刷、筆記具、託児ができる場所

財務的資源・・・チラシ作成代、場所代、空調代、

情報的資源・・・チラシ、コミセンだより、社協だより、防災無線、ＦＭさつませんだい

**そのために必要なネットワーク化（協働）**

自らの組織・グループの補強・・・・・・人的資源として中心となって活動できる

他の組織やグループとの関係・・・・・・地区コミ、自治会長、民生・児童委員、健やか支援アドバイザー、社会福祉協議会

特定の個人（特に専門能力を有する人）・女性チャレンジ委員会

対行政・・・・・・・・・・・・・・・・・ひとみらい政策課、地域政策課（地区コミ主管課）

（高齢・介護福祉課、障害・社会福祉課、保護課、市民健康課）

現状把握の図解（空間配置図）

**テーマ：ひとりぼっちをつくらない**

**あじさいG：内野、木下、井上、辻原、穂村、山門**

A：薩摩川内市において、住民同士の生活支援を展開する「まるごと支え愛事業（平成30年度～3年目）」は、希望する地区コミ単位の補助事業であるが、取り組みは48地区コミ中12地区コミと、市全域に普及するに至っていない。

◎実施していない理由としてもともとある地域の助け合いにうまく当てはまらないということがある。
◎一部の人だけが熱心に取り組んでいる場合がある。
◎人口減・高齢化率上昇などを理由に支援者が確保できない
◎まるごとささえ愛事業が始まっているが、本当に困っている人の調査ができていないため足踏み状態の地域がある。
◎私の地域の民生委員は「まるごとささえ愛事業」があればいいと思っている。
◎事業自体を知らない住民もいる
◎「まるごとささえ愛事業」に取り組んだのち、自主的な取り組みとして市の補助金を利用せずすすめる地区コミもある。

B：薩摩川内市において高齢化が進む中で、私たちの身近には、ゴミ出しや買い物等の日常生活に支障をきたしているひとがいるが、地域に手助けを求める人は少なく周囲もきづかないでいるうちに潜在化する傾向にある。

◎粗大ごみがたまっているが、出しに行けない人がいる。
◎ごみの分別ができず、自宅がゴミの山になっている。
◎ごみ回収場所が遠く持っていけない。
◎高齢になり、不安に思いながらも、買い物や通院等に運転を続けている。
◎同居の母の脚が悪くなり、バスに乗れなくなり、買い物が困難。
◎今はよいが将来車の運転ができなくなったらと不安になる。
◎独り暮らし高齢者の買い物困難。
◎移動販売の日程が合わず買い物できない。

C：薩摩川内市において高齢化が進む中で、私たちの地域には、高齢者のみならずその家族にも影響を及ぼす「見ようとしなければ見えない」不安や困難をかかえている状況が潜在しており、周囲も気づかないでいるうちに、所謂「8050問題」の進行や孤独死等の深刻な事例につながることが心配されている。

◎ある独り暮らし高齢者女性は、民生委員が訪問するたびにごみが増えているため声をかけると「気分がすぐれないのでごみ出しに行けない」と言う。分別を手伝い捨てていたが、その後「ごみの中に通帳が入っていたはず」と言われ困った。その後、その女性は認知症の為ごみが捨てられずにいたと分かった。
◎親の介護をしながら仕事を続けていたが、親が亡くなったことで、後を追って命を絶とうとする人がいた。
◎認知症になった90歳の母親の介護を娘が5年間している。二人での生活だが介護に時間を取られるため娘は仕事に就けず母の年金で生活している。生活費、デイサービス代、おむつ代など、金銭的にも苦しくなっている。
◎80代男性、年金のみで生活に困窮している
◎母80代、息子40代二人暮らし。母は元々物静かで家から出たがらない。息子は他県企業に就職したが実家に戻り家からでなくなった。買い物はネットでしている様子。隣家の高齢者夫婦が気にかけているが、いつまで声掛けできるか心配している。
◎母80代、娘50代で娘は他県から母の出身地に入居。母は物忘れや怒りっぽいなど認知症気味。娘は全く知らない土地で徒歩での買い物に時間がかかる。親子喧嘩が増えている。自治会には入っていない。
◎独り暮らし高齢者女性、活動的で気の合う方とお茶会をされていたが、ある朝カーテンが開かないのに気づいた数人で訪ねると亡くなっていた。

D：今後加速する高齢化により（2025年問題）に直面する地域において、自治会や地区コミ等による生活支援に期待するニーズは高まるが、生活支援に具体的につなげるための地区の現状把握・情報供有が十分になされておらず、民生委員等の人材や近隣住民に自発的な支え合いの力の活用とそれを広げるネットワークづくり（仕組みの構築）が急がれる。

◎独り暮らし高齢者が通院や買い物に運転を頼む近所の人も高齢者で今も将来も不安。
◎独り暮らしで体が不自由、災害時の避難が不安。
◎日中は地域の中に若い人でがないため、災害時の不安。
◎認知症気味の高齢者とともに住み慣れた地域で生きていけるか模索している人がいる。
◎息子と二人暮らしの高齢者がいるが、脚が悪くなってから自治会の活動に参加できなくなり周囲の皆が心配している。
◎夫を亡くしたのち妻が認知症になり、夕方から夜の徘徊、訪問販売に騙されることもあった。
◎体が不自由なためごみを捨てに行けず、子どもたちには頻繁に頼めずごみがたまり、畑で生ごみや紙のほかプラスチックごみまで焼いている。
◎集落のはずれに住んでいる高齢者夫婦がいるが、脚が悪くゴミステーションに行けなくなっている。夫は認知症があった。地域ケア会議でしばらくの間、自治会の自治会長、民生委員、アドバイザーが交代で捨てに行くようにした。
◎介護に追われ引きこもりになり、気づかれることもなく二人とも衰弱死していたことがあった。
◎介護者を抱えているため、家に引きこもりがちになり外出しても介護に追われ、疲れ切ってしまっている人がいる。
◎80代男性、妻を亡くし、子も他界。寂しい思いと頼る人がいない不安。
◎転倒後、死因は凍死という、孤独死の事例がある。
◎1期3年の任期で、日頃から訪問活動で情報収集し、困りごとを関係機関につなぐ役割の民生委員に対し、自治会長や健やか支援アドバイザーは1～2年で交代する現状。民生委員の情報量は多大であると同時に、負担も大きい。

**抽出された課題**

① 地区コミ、自治会の役割の再認識と住民のコミュニティ意識の醸成を図り、地域全体で展開する生活支援の仕組みづくり
② 困難な状況に置かれている人が取り残されることなく地域の誰もがつながりあえる（誰にも出番と居場所がある）場の創出

テーマ：「豊かな子育ての島を目指して」

**事業名：「こしきの子育て強化プロジェクト　”welcome　甑島”事業」**　　バーリンガールグループ:江口、白潟、植村、中野、塩釜、小川、川路

…甑島在住７名の私たちグループは、それぞれの住む地域での問題を踏まえて、今私たちは何をしなければならないか考えた。

様々な問題が出される中、グループに２名の子育て世代の母親がいることから、今の甑島における子育ての問題やそれを取り巻く状況などについての意見が多く出されたため、調査研究のテーマを「豊かな子育ての島を目指して」とした。

テーマ「豊かな子育ての島を目指して」について現状把握されたこと

現状把握をする上で、多くの子育て世代の実感の声を聞くために、小・中学校の生徒及び幼稚園・保育園の児童がいる１７０世帯の男女の保護者を対象にアンケート調査を実施し、２０７名からの回答が集まった。

この調査結果と地域の人の聞き取りや私たちのグループからの情報を総合的に分析し、以下のＡ～Ｈに集約され現状把握に至った。

Ａ　甑島の子育て世代は島外からの移住者や転勤者が半数以上を占めていて、以前から暮らしていた場所と比較しても医療体制が充実していないと感じている。

Ｂ　甑島の子育て世代の人たちは、他の親や子供たちと一緒に交流を図り成長を見ていきたいと希望しているが、子育ての情報を共有する機会や遊ぶ場所が少ないので、親自身も孤独に感じている。

Ｃ　人口減少や少子化の中で、地域全体で子供を育てることや、甑島の将来を担う子育て世代の生活を豊かに支えることの基盤として、また島外から人を呼び寄せる観点からも、学校をはじめとする地域における“学び”の環境の充実が求められている。

Ｄ　甑島の子育て世代は様々な理由から島外へ出ることが必要であり、交通手段に関する状況が、生活上の不便につながっている。

Ｅ　甑島で暮らす子育て世代や島外からの移住者の生活基盤として重要な島内のネット環境の整備が十分に進んでいない。

Ｆ　甑島では地域内の商店が少なく、島外と比べると商品の種類が十分でなく困っている人がいる。

Ｇ　甑島では、保育園や幼稚園、学童保育等、乳幼児教育及び保育の社会資源の現状について、十分でないと感じる子育て世代がいる。

Ｈ　甑島の子育て世代の多くは、甑島は子育てしやすい環境であると感じている。

**課題として抽出されたこと**

現状把握から課題の抽出の過程において、私たちは、アンケート調査を実施したが、回収率が高かったことやその内容に、若者としての意見を発信したいという真剣さを感じることができた他、これまで子育て世代の意見や考えを発信する機会が少なかったことを実感した。

また、子育ての社会的基盤の整備を求める一方で、多くの人が甑島は自然が多く、人情あふれる地域で子育てしやすい環境であると感じていることに、気づかされた。そのためにこの事業は、子育てに良い環境を保持しつつ不便や困難な事柄を解決していく必要があり、地域住民が主となり事業計画や実行を進めていく過程を大切にしたものでなければならないと考えた。そして、現在子育て中の人々が、今以上に甑島は子育てしやすいと感じ、そのことが島内外に発信され、甑島で子育てしたいと思う人々を呼び寄せることができればと考えた。

以上の事を踏まえて次の二つを課題とした。

課題１　子育て世代にとって親和性があるネットの活用と、先輩世代のサポートによる子育てや生活の安心を高める相談・情報交換・交流の拠点づくり

課題２　甑島の将来を担う子育て世代の思いや声が、甑島づくりに参画できる場や機会の創出

以上の事を解決するために立案したものが、「こしきの子育て強化プロジェクト　”welcome　甑島”事業」である。少子高齢化が進む中、甑島の将来を担う子育て世代の応援をするために、地域住民の知恵や力を終結していくことが、今後の甑島の活性化に繋がり、子育て世代が増えることにつながると考えた。

**この構想の付加価値**

○子育て世代の交流がより活発になり、子育て支援につながる。
○異世代と交流する場ができることでコミュニケーションがとりやすくなる。
○地域ぐるみの子育てが充実する　○子育て世代のコミュニティへの参画促進
○甑島で子育てをしたいと思う人が増える。

**この構想により利害が及ぶ人**

○子育て世代　○ふだん引きこもりがちな人
○転入者　○地域コミュニティ
○地域住民

**長期的(3～5 年程度)事業計画**

○”welcome　甑島”事業の展開
・交流の場(キッズステーション)の定期開催
・島外からの子育て世代の受け入れ体制を整える。

**中期的(1～2 年程度)事業計画**

○交流の場(キッズステーション)の開催
・各地域での開催
○こしき子育てコミュニティの組織結成
○ネットが使える場所や環境確保
○島外からの子育て世代の受け入れ準備
・住居確保、整備　・事業内容発信　・就職先の斡旋

**短期的(数カ月)事業計画**

○交流の場(キッズステーション)のしくみづくり
・モデル地区で実践開始、検討
・オンラインの体験会開催
○こしき子育てコミュニティの組織づくり
・ネット上でのグループ作り
・医療機関や保健師、医療関係者との交渉

**実現のための制約要因**

・個人情報の取り扱い　・人材確保
・衛生管理　・場所の確保
・地域住民の理解と協力

**実現のための制約要因**

・個人情報の取り扱い　・地域住民の理解と協力
・衛生管理　・場所の確保
・事業に関わるメンバーの確保

**獲得すべき経営資源**

| | |
|---|---|
| 人的資源 | 地域住民・サポートする人・専門家 |
| 物的資源 | 開催場所・遊具・住居・パソコン・スマートフォン・iPad |
| 財政的資源 | 使用料・人件費・情報通信機器代・広告費 |
| 情報的資源 | 防災無線・公報・市報・チラシ・ホームページ |

**そのために必要なネットワーク化（協働）**

| | |
|---|---|
| 自らの組織・グループの補強 | 賛同者の広がり・人材確保 |
| 他の組織やグループとの関係 | 地区コミュニティ協議会・学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・子育てサポート支援センター |
| 特定の個人(特に専門能力を有する人) | 男女共同参画推進委員・医師・看護師・保健師・ネットワークなどの専門的知識を有する人 |
| 対行政 | 市役所子育て支援課・地域政策課・ひとみらい政策課 |

テーマ：豊かな子育ての島を目指して

バーリンガールグループ

★私たちのグループは、上記テーマの現状把握に当たって、アンケート調査を実施した。
（乳幼児～中学生までの児童を持つ保護者１７０世帯へ各２枚配布、回答数２０７名）
以下の情報は、その調査結果を踏まえるものです。

H：甑島の子育て世代の多くは、甑島は子育てしやすい環境であると感じている。

①環境が自然が豊かで静かでのんびりしている。
②労働時間及び通勤時間が本土地域と比べ相対的に短く、家族と過ごす時間が十分取れる。
③収入は少ないが、生活費としての支出も少ない。
④地域コミュニティが存在しており、人に見守られ育まれながら子育てできる。
⑤子供の数が少ないため、少人数で教育が受けられる。
⑥子供の数が少ないため、異年齢の子供の同士の交流があり自然と思いやり合う心が育まれる。

C：人口減少、少子化の中で、地域全体で子供を育てることや、甑島の将来を担う子育て世代の生活を豊かない支えることの基盤として、また、島外から人を呼び寄せる観点からも学校をはじめとする地域における”学び”の環境の充実が求められている。

①少人数になっていく状況で学校や地域の対応が部活動の種目・学校行事等今の現状に合っていない。その事が学校間の交流減少につながっている。
②通信制の高校や高等教育が受け入れられる施設がない。また、高等学校以上の教育制度が整えば島外から人を呼び寄せる事へも繋がると思っている人がいる。
③島立ちしないといけないのが悲しいと思う人がいる。今までに高校があったらもっと子供が多かったと思う人がいる。
④甑島では様々な資格を取るためには、島外で宿泊を伴った授業や講習を受ける必要があり、島外住民に比べて大変な労力と資金がかかる。
⑤甑島島内では通信授業を受けるための施設がない。
⑥子供の教育のため(スポーツ、習い事)に島外に出るためには泊をともない、お金がかかる。

A：甑島の子育て世代は、島外からの移住者や転勤者が半数以上を占めていて、以前暮らしていた場所と比較しても医療体制が充実していないと感じている。

①出産経験のある人たちの多くは、妊婦の妊娠時の検診がとても大変で子供を連れながらや、船酔いがあるため辛く、産科の検診が島でできたら安心だと考えている。
②甑島においては、産科の他耳鼻科・小児科等専門的な受診が出来ないことに、子育てへの不安を抱える人もおり、循環医療が定期化を望む声がある。
③近くに診療所があるが、すぐに受け入れてもらえない。特に土日に発熱しても子供の受診を我慢させている状況にあるという声がある。
④全島において年齢を問わず求める医療として、患者の話を聞いてくれる医師の存在を挙げる人がいる。
⑤子育てが不安な時に対応してくれる、カウンセラー・保健師等による身近に相談窓口を求めるニーズがある。
⑥多くの人が、甑島医療の充実化のために総合病院が早期に整備されることを望んでいる。

G：甑島では、保育園や幼稚園、学童保育等、乳幼児教育及び保育の社会資源の現状について十分でないと感じる子育て世代がいる。

①現状、保育園が里・青瀬に、幼稚園が里・上甑・青瀬・鹿島に、児童クラブが里・手打にそれぞれある。
②幼稚園、児童クラブの登園時間（開所時間）が望んでいるよりも短く不便を感じている保護者がいる。
③住んでいる地域に保育施設がなく不便を感じている保護者がいる。
、③児童クラブは幼児教育無償化の対象外であるため、料金を負担に感じている保護者がいる。
④保育師や幼稚園教諭の待遇（嘱託職員）が業務に見合っておらず待遇を改善すべきと感じている保護者がいる。

B：甑島の子育て世代の人たちは、他の親や子供たちと一緒に交流を図り成長を見ていきたいと希望しているが、子育ての情報を共有する機会や遊ぶ場所が少ないので、親自身も孤独に感じている。

①乳幼児を子育て中の母親で、他の子供たちと一緒に遊ぶ場所が近くにないので不便に思っている人がいる。同時に母親自体も孤立感を持っている。
②自分が病気の時や急な用ができたときに子供を預ける所がなく、困った経験がある母親がいる。
③仕事の有無に関係なく子供の一時預かりができる施設があれば、子育てし易くなると思う親がいる。
④子供と親が一緒に交流する場所を求める子育て中の父母たちのニーズがある。
⑤子供食堂などのような地域住民や子供たちやその親などが交流できる場所がない。
⑥ファミリーサポート制度があるがなかなか利用するまでにいたっていない。
⑦甑島には子育てについていつでも気軽に相談できる場所がない。
⑨少人数の地域でも他の子どもと親が一緒に交流し、地域の子どもたちの成長をお互いに見ていきたいという子育て中の父母たちのニーズははあるが、交流の場が無いために、自分の子供との関わりしか持てない。

E：甑島で暮らす子育て世代や島外からの移住者の生活基盤として重要な島内のネット環境の整備が十分に進んでいない。

①光回線は役場、病院にしか通じておらず一般の家庭では利用できない。
②フリーWi-Fiを利用できる施設のない地域がある。
③島外と比べてインターネット使用にお金がかかる状況にある。

F：甑島では地域内の商店が少なく、島外と比べると商品の種類が十分でなく困っている人がいる。

①島で捕れる魚はあるが、魚の値段が本土より高く、手に入りにくい地域がある。
②子供のために必要な物が十分には売っていない。
③市販薬を買える薬局がない。
④商店や銀行などの閉店時間が早い。
⑤島のガソリンが国の補助があるにも関わらず、本土より１ℓあたり４０円高い。
⑥子育て世代は、島内の物価が高く必要な品物が揃わないために、ネットでの買い物に頼る生活になっている。

D：甑島に住む子育て世代は様々な理由から島外へ出ることが必要であり、交通手段に関する状況が生活上不便につながっている。

①フェリー及び高速船の運航スケジュールが上甑島優先になっている。
②甑島が一つになるという生活基盤として船便の増便や運行時間帯のニーズがある。
③子供連れでの島外への移動に２～３時間くらいかかるフェリー内にキッズスペースがあると助かるという声がある。

**抽出された課題**

課題１　子育て世代にとって親和性があるネットの活用と、先輩世代のサポートによる子育てや生活の安心を高める相談・情報交換・交流の拠点づくり
課題２　甑島の将来を担う子育て世代の思いや声が、甑島づくりに参画できる場や機会の創出

**テーマ：「誰一人取り残さないコミュニティづくり」**
**事業名：「隣人力の発信！困ったときは、おじちゃん、おばちゃんたちがいるよ」事業**
**～隣近所のおじちゃん・おばちゃん達の力を資源に！～**
尊グループ：今吉、家村、小田原、中谷、福山、銭原

**【はじめに】**
昨今、幼児に対するネグレクト、虐待からの死亡など身近に悲惨な事件が起り、私たちは地域の大人“おばちゃん”として胸が痛んだ。それについて、加害者になった親の責任と、決めつけるだけでいいのか？また、事件までは行かないが、心配な状況にある子どもたちや、一人で悩みを抱えている子育て世代の親が身近にいるかもしれない。「これは、ほっとけない」ということで私たちは、「誰一人取り残さないコミュニティづくり」を、テーマに調査研究を行った。

**【現状把握】**
① 本市においては、子育てや児童・生徒に関する相談支援体制が整備され、様々なサービスがあるが、私たちの身近には、誰にも・どこにも相談できず、悩みや困難を一人で抱え込んでいる人たちがいる。
② 私たちの地域には、地域の慣行に馴染めない等の理由で地域との関わりが希薄であるため、困難な状況に心を寄せている人、地域で何か貢献したいと思っている人の潜在力が活かされていない。
③ 私の地域では、地区コミュニティ協議会や自治会において、生活上の困難を抱えている人を支援する様々な地域づくりが取り組まれているが、今後さらに支援を必要とする人の増加や、行政や地域の支援につながらず潜在するニーズ に対応する地域づくりのありかたや、しくみが要請される。
④ 本市においても、「ひきこもり」支援サービス等困難をかかえる子どもや家庭への相談支援体制は整備されているが、相談支援を担う人材の対応によっては、 相談者が二次被害を受ける 場合があり、そのことで〝関わり〟に心を閉ざしてしまうことが心配される。
⑤ 私たちは、自分の身近にも「食」の状況に困難をかかえている子どもがいることを心配している。

**【抽出された課題】**
1. 地域で多様な困難を抱えている人が、「相談ができない状況」に、おかれないための〝日常の関わりの中での寄り添い力〟のある地域づくり
2. 地域貢献したい人や、潜在力として期待されている「隣のおじちゃん、おばちゃん」を発掘し、人権教育をベースとした、ジェンダー平等の視点を基にした人材育成の場、及びネットワークづくり。

以上、１、２、の課題解決に向けて、一人ひとりにより近い、「近所のおじちゃん・おばちゃん」力が、一人ひとりにより深く寄り添う力を発揮できるために不可欠である人権・ジェンダー平等（男女共同参画）の視点を学ぶ共同学習の場から実践につなぎ、ネットワーク化することを、事業を進める方向の柱とする。

**【この事業の付加価値】**
① 人権・ジェンダー平等を学ぶことにより、固定観念にとらわれることなく、ひとりかんけつで抱えている「見ようとしなければみえない」悩みや困難の把握につながる。
② 行政サービスにつながっていない困難な状況にある人とサービスをつなぐ役割が担える。
③ 身近な交流（関わり合い）の場の機会を通じた細やかな情報交換ができることにより、悩みや困難を抱えている人に、いち早くアウトリーチできる機会が得られる。
④ 子育て世代の不安や孤立感を固定観念にとらわれずに受容できる“関わり合い”の場や機会をつくりだすことにより、子育てを地域で見守る意識の醸成につながる。
⑤ 子どもたちとの“斜めの関係”ができることにより、子どもたちが、家族以外の人との繋がりの中で様々な経験ができ、家族に言えないことも相談できる場や機会をつくりだせる。
⑥ 定年後のＯＢ・ＯＧ等シルバー世代の社会参加の促進につながる。
⑦ 地域で身近に人権・男女共同参画を進める啓発の広がりにつながる。

**【この事業により利益が及ぶ人】**
① 様々な生活上の困難をかかえているが、どこにも誰にも相談できず、行政や地域の相談支援のサービスにつながっていない一人ひとり
② 子育ての不安や悩み、困難をどこにも誰にも相談できないでいる子育て世代の一人ひとり
③ 地域の集いの場（サロン等）に参加できていないシルバー世代の一人ひとり
④ 自治会、地域コミュニティ協議会における支え合い活動の活性化を模索している役員等地域の人
⑤ 活動を高めるために他の主体・人材との連携を必要としている民生委員・児童委員等アウトリーチの担い手
⑥ ボランティア活動や地域活動等への関心があるが、参加の方法やタイミングがわからずにいる人
⑦ 現役の時代に地域との関わりが希薄であったために、定年後から高齢期に至り閉じこもり状態にある一人ひとり（特に、その傾向がみられる男性）

**【長期：３～５年後】**
- 「共同学習」「誰もが自由に参加 できるカフェ」の定期的実施による日常の営みの中での支え合いを行う本事業、「繋がりタイ ンジャー」の定着と継続
- 「繋がりタインジャー」の地区単位の活動の定着と広がり
- 「近所のおじちゃん・おばちゃん力」を発信する「繋がりタインジャー」のホームペー ジ制作

**【中期：１～２年後】**
- 「繋がりタインジャー」メンバーのフォローアップ研修・共同学習の継続（定期的実施）
- 「共同学習」への参加促進活動
- 「繋がりタインジャー」の地域単位の活動に向けての体制づくり（自治 会・地区コミ協への協力・連携要請等）
- 誰もが自由に参加できるカフェの定期開催
- 必要とする人に行政支援・サービスを繋ぐ場合の連携のありかたを確認し、より連携を図るための行政・支援機関・社協、民生委員・児童委員等との情報交換の実施。
- ホームページ制作の資金調達のためのバザー等の実施

**【短期的（数ヵ月）事業計画】**
- 私たち（尊グループ）による「繋がりタインジャー」の立ち上げ
- 第一回共同学習の実施に向けて、ひとみらい政策課、男女共同参画地域推進員、チャレ ンジ委員会委員有志への協力要請（「誰一人取り残さない地域コミュニティづくり」のために不可欠な人権・ジェンダー平 等（男女共同参画）の視点を、私たちの提案事業を題材としてみんなで語り合いながら 学び合い、情報交換を行う。学習のファシリテーターとして「先に学んだ」男女共同参 画地域推進員、チャレンジ委員会委員の「さらなるエンパワーメント」の機会としてお願いする。）
- 「共同学習」の内容についての研究
- 第一回共同学習の実施に向けて、ファシリテーターの事前学習の実施
- 社協、地区コミ協、地区の民生委員・児童委員・丸ごと支え愛事業のコーディネーター、 地域の〝おばちゃん同志の井戸端会議〟等にて、私たちの提案事業の趣旨及び「繋がり タインジャー」の説明、第一回共同学習への参加案内を行う。
- 第一回共同学習の実施―「繋がりタインジャー」活動への参加を募る。
- 誰もが参加自由のカフェ等を開催。（そのチラシを作成し、地区の民生委員、児童委員 等の協力を得て、参加の呼びかけをする。）
- 「繋がりタインジャー」の得意分野の把握
- 第一回共同学習、カフェの評価―改善事項の検討
- 「繋がりタインジャー」をはじめ地域の人を対象とした行政や地域の相談・支援のサー ビスについて知る学習会の実施（様々な相談・支援行政サービス等があることの地域の 人への周知及び「繋がりタインジャー」の活動で必要とされる場合に、速やかに適切 に行政・支援機関等に繋げられるようするために行政・社協等に講師、情報提供を依頼 する）

**【実現のための制約要因】**
- 参加、協力者への趣旨説明の徹底と、人権・ジェンダー平等（男女共同参画）の視点を有する人材の増強と定着
- 個人情報の取り扱い注意
- 安心・安全な活動
- ホームページ制作の資金調達

**【実現のための制約要因】**
- 参加、協力者へ趣旨説明の徹底と人権・ジェンダー平等（男女共同参画）の視点を有する人材の確保
- 個人情報の取り扱いに注意する。
- コロナ禍、感染予防に配慮した安心・安全な活動

**【獲得すべき経営資源】**
・人 的 資 源：地域住民・人権、ジェンダー平等の視点を有する人・地域の民生委員・児童委員、健やか支援アドバイザー、丸ごと支え愛事業のコーディネーター
・物 的 資 源：自治会館、地区コミュニティセンター、おじちゃん・おばちゃんの自宅
・財務的資源：人権、ジェンダー平等の視点を柱とした人材育成の研修費、講師料、交通費、チラシ作成費、各種団体への協力依頼などの通信費、ボランティア保険の加入費の援助
・情報的資源：回覧板、市広報等、防災行政無線、各種メディア

**【必要なネットワーク化】**
・自らの組織・グループの補強 ：賛同してくれる繋がりタインジャーの広がり
・他の組織グループとの関係 ：地区コミュニティ協議会、民生委員・児童委員連絡協議会、各種団体、甑島の子育ての考え方を学ぶ研修・交流を図る。
・特定の個人（特に専門能力を有する者） ：民生委員・児童委員、すこやか支援アドバイザー、女性チャレンジ委員、男女共同参画地域推進員
・対　　行　　政：薩摩川内市ひとみらい政策課、地域政策課、子育て支援課、高齢介護福祉課、障害社会福祉課・保護課、社会福祉協議会

私たちの地域には、地域の慣行に馴染めない等の理由で地域との関わりが希薄であるため、困難な状況に心を寄せている人、地域で何か貢献したいと思っている人の潜在力が活かされていない。

① 私たちの地域では、「ひきこもりの家庭」・親子へどう接していいかわからずに心配している人がいる。
② 私の地区のサロンでは、元気で特技をもっている高齢者が、いつも“サービスを受ける側”になっている。
③ 私たちの地域には、子育て支援の担い手として期待される支援したいと思っている人や 保育士・看護師・教育生者の OG/OB 等)の潜在力がある。
④ 私たちの地域には、定年後、地区コミュニティや自治会の活動へ参加したいと思っているが、“場”への入り方が、わからない人がいる。
⑤ 私たちの身近には、定年後、「地域で何か貢献したい」という意欲のある元気で健康なシルバー世代がいる。
⑥ 私たちの地域では、グラウンドゴルフに好んで参加する人たち（主に高齢男性が多い）と、歌を歌ったり絵を書いたりするレクリエーションのあるサロンに参加している人たちがいる。
⑦ 私たちの地域には、郷土菓子を作るグループがあり、高齢者の交流の場になっているが、 新規の参加者がいない。
⑧ 私の自治会では、丸ごと支え愛事業の取り組みで、「お出かけサロン」や「世代間交流のサロン」を行うことに関して、『新しいことをすると、次から係りをする人が大変になり困る。』と、言う人がいる。

私の地域では、地区コミュニティ協議会や自治会において、生活上の困難を抱えている人を支援する様々な地域づくりが取り組まれ ているが、今後さらに支援を必要とする人の増加や、行政や地域の支援につながらず潜在するニーズに対応する地域づくりのありかたや、しくみが要請される。

① 私の地域の近所の高齢の女性は、ゴミ捨てが出来ずに自宅の庭でおむつやゴミを焼いており、自治会長や近隣の人々がゴミ捨ての手伝いを申し出ている。その女性が思わず、皮肉を言ってしまうことから、支援をすることが難しくなっている。
② 私達の地域の会社で働くフィリピンの女性を近所の民家や公民館に招待し、浴衣の着付けを行うなど地域の人達と一緒に和やかな時間を過ごした。
③ 私達の地域では自治会に加入していない困難な状況にある人に、丸ごと支え愛事業が対応できない仕組みとなっている。
④ 私たちの地域では自治会ありきの地区コミュニティの活動になっているため、自治会に入っていない世帯には、子育て支援の情報やサービスを得ることができない人がいる。
⑤ 私たちの地域では、子育てサロンや高齢者サロンに参加している人に対し、主催やボランティアの係の人が、「あなたは自治会に入っていないがね。なんで来たの?」という言い方をしている。
⑥ 私たちの地域では、歩いていける距離にみんなで集まれる場所があったら良いと思う人がいる。
⑦ 私たちの地域では、校区の祭りの際に、お母さんが催しに参加できるように先輩お母さん達のボランティアで託児を行った。
⑧ 校区催しの計画の際、ボランティアで託児をしたいという提案に対し、「子どもに怪我をさせたらどうするの?」という意見が出て話が先に進まなかった。

本市においても、「ひきこもり」支援サービス等困難をかかえる子どもや家庭への相談支援体制は整備されているが、相談支援を担う人材の対応によっては、相談者が二次被害を受ける場合があり、そのことで〝関わり〟に心を閉ざしてしまうことが心配される。

① 私達の地域には、子どもの不登校に悩んでいる人がいたが、小学校のスクールカウンセラーの関わりで登校できるようになった。
② 私が、不登校の子どもの家庭訪問をした時、その家庭等の状況について、打ち合わせしていたにもかかわらず、一緒に行った家庭への支援を担う人が、指導マニュアル通りの質問をするなどの対応に、親御さんたちはいたたまれない様子だった。
③ 私が相談を受けていた不登校の子どもの家庭と専門家での相談に同行した時、相談を受けた専門家が薄ら笑いをしながら、「どこが問題なんですか？」と言った。その態度に相談者の家族が傷ついたのではないかと心配した。

本市においては、子育てや児童・生徒に関する相談 支援体制が整備され、様々なサービスがあるが、私たちの身近には、誰にも・どこにも相談できず、悩みや困難を一人で抱え込んでいる 。

① 子どもが 37.5 度以上の発熱があった場合は、預かりサービスが中止となり、親が仕事を休んで世話をしている。
② 新型コロナ発生後は、感染予防のため、発熱後、親も子どもも 2 週間、自宅で過ごし、その間の収入や子育て支援のサービスが絶たれて困っている。
③ 私の近所には、子どものゲーム依存への対応に困っている人がいる。
④ このコロナ禍で、中高生の望まない妊娠が増加しているという報道があったが、 私の地域でも、望まない妊娠の状況になった中学生・高校生が周囲に気づかれないよう本市以外で中絶したと知り、胸が痛んだ。
⑤ 私の近所に、冬であったが、汚れた T シャツを着ている児童がいた。
⑥ 市の子育て支援に関するサービスの周知は、広報紙、FM 放送、防災行政無線放送、 市のホームページ、健診など様々な場などに行われているが、私たちの身近には、困難な状況であるにもかかわらず、公的な相談につながらず、サービスを受けるまでに至っていない人がいる。

私たちは、自分の身近にも「食」の状況に困難をかかえている子どもがいることを心配している。

① 私の身近の共働き家庭の子どもが、朝ご飯を食べていないことがあった。
② 私たちの地域に食事をとれていない様子の子どもがいて心配している。
③ 私たちの地域にはマンガ、ゲーム機は準備されているが、食事をしていない子どもがいることを気にかける人は少なく、その支援は行われていない 。
④ 私たちの地域には、食事をとれていない様子の子どもがいるが、その子どもが、 マンガ、ゲーム機で遊んでいた。
⑤ 私の身近には、経済的に生活が厳しい状況にあり食事が一日一食の家庭がある。
⑥ 私の職場の近くの公園に夕方遅く、一人でいる幼児がいるが、食事をしていないのではないかと心配している。
⑦ 私の地域で登校時間のスクールガード中、道路で倒れた子どもを保健室に連れていったところ、保健室で朝食を食べている児童がいた。

***抽出された課題***

I. 地域で多様な困難を抱えている人が、「相談ができない状況」におかれないための〝日常の関わりの中での寄り添い力〟のある地域づくり
II. 地域貢献したい人や、潜在力として期待されている「隣のおじちゃん、おばちゃん」を発掘し、人権教育をベースとした、ジェンダー平等の視点を基にした人材育成の場、及びネットワークづくり

## 薩摩川内市女性チャレンジ委員会活動経過（第８期）

### 令和元年度

| |
|---|
| 第１回全体会　　５月２９日（水）　市役所会議室 |
| 第２回全体会　　６月２０日（木）　川内文化ホール |
| 第３回全体会　　８月２２日（木）　川内文化ホール |
| ○現状把握のための市役所関係課ヒアリング<br>企画政策課、地域政策課、交通貿易課、施設課、防災安全課、高齢・介護福祉課、障害・社会福祉課 |
| 第４回全体会　　１０月２４日（木）　川内文化ホール |
| 第５回全体会　　１２月２０日（金）　川内文化ホール |
| 第６回全体会　　２月１８日（火）　川内文化ホール |
| 第７回全体会　　３月　５日（木）　市役所会議室（議会傍聴） |

### 令和２年度

| |
|---|
| 第８回全体会　　５月２８日（木）　川内文化ホール |
| 第９回全体会　　７月　１日（水）　川内文化ホール |
| 第１０回全体会　　８月２０日（木）　川内文化ホール |
| 第１１回全体会　　１０月２２日（木）　川内文化ホール |
| 第１２回全体会　　１１月１９日（木）　川内文化ホール |
| 第１３回全体会　　１月１４日（木）　ＳＳプラザせんだい |
| 第１４回全体会　　２月１９日（金）　ＳＳプラザせんだい |

※２年間に各グループ自主学習を数回開催しています。

# 第8期薩摩川内市女性チャレンジ委員会

【グループ別：五十音順】

| グループ名 | 氏　名 | 地区 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 尊（みこと） | 家村　純子（イエムラ　ジュンコ） | 可愛 | 副 |
| | 今吉　美智子（イマヨシ　ミチコ） | 平佐西 | リーダー |
| | 小田原　時子（オダハラ　トキコ） | 可愛 | |
| | 錢原　睦美（ゼニハラ　ムツミ） | 隈之城 | |
| | 中谷　睦美（ナカタニ　ムツミ） | 平佐西 | |
| | 福山　小百合（フクヤマ　サユリ） | 隈之城 | |

| グループ名 | 氏　名 | 地区 | 備考 |
|---|---|---|---|
| バーリンガール | 植村　多喜子（ウエムラ　タキコ） | 上甑 | |
| | 江口　玉美（エグチ　タマミ） | 手打 | リーダー |
| | 小川　真希（オガワ　マキ） | 里 | |
| | 川路　明（カワジ　メイ） | 手打 | |
| | 塩釜　悦子（シオカマ　エツコ） | 鹿島 | |
| | 白潟　麻利子（シラガタ　マリコ） | 青瀬 | 副 |
| | 中野　富代子（ナカノ　フヨコ） | 鹿島 | |

| グループ名 | 氏　名 | 地区 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 花みずき | 青山　美由紀（アオヤマ　ミユキ） | 清色 | |
| | 犬井　美香（イヌイ　ミカ） | 藤川 | 副 |
| | 圓﨑　信子（エンザキ　ノブコ） | 永利 | |
| | 神田　洋子（カンダ　ヨウコ） | 高来 | |
| | 鶴屋　志津子（ツルヤ　シヅコ） | 峰山 | |
| | 武藤　智子（ムトウ　トモコ） | 亀山 | リーダー |

| グループ名 | 氏　名 | 地区 | 備考 |
|---|---|---|---|
| あじさい | 井上　京子（イノウエ　キョウコ） | 大村 | |
| | 内野　多津代（ウチノ　タズヨ） | 斧渕 | リーダー |
| | 木下　奈津子（キシタ　ナツコ） | 市比野 | 副 |
| | 辻原　恵子（ツジハラ　ケイコ） | 副田 | |
| | 穂村　みゆき（ホムラ　みゆき） | 水引 | |
| | 山門　博子（ヤマト　ヒロコ） | 城上 | |

第8期チャレンジ委員会委員のみなさん